



「高齢の親が透析」といわれたら～ 家族が考えること

透析導入年齢の高齢化が進むなか、高齢の親が透析と診断されどうしたら良いか苦悩する人が増えています。今回は終末期医療について見識が高く著作も多い大平整爾先生に、そんなときに考えなくてはならないことについて書いていただきました。

札幌北クリニック 大平整爾先生

■治療方針を決める原則

命に関わったり、生活に大きな変化をもたらす治療法に対して、患者側として結論を出すことは容易なことではありません。現代医療は「患者本人の意向（希望）」（自己決定権）を大原則としますが、医師からの説明を十分に理解できず迷いが出て、あれこれ悩むという状況がよくあります。年齢を重ねた方が病気になった場合には、一層、そうした事態が多くなります。

■治療方針を決める準備と話し合い

治療の開始を何時までも待てませんから、病院側は診断が決まった時点で、患者さん本人とご家族に医師を加えた三者で話し合いの場を持つことにします（このことを「共同の意思決定」と呼びます）。この場合に大切な事柄を挙げてみましょう：

●患者・家族・医師との話し合いの前に

- 1) 落ち着ける場所で複数回の話し合いを持てるように、担当医にお願いしましょう。
- 2) 患者さんの病気について既に大まかな説明を受けていると思いますが、第1回の話し合いの日時が決まったら、その前に患者・家族側としての準備が必要です。
- ① 「腎臓がひどく悪くなったので（進行腎不全）、その機能の代わりにする手段として患者さん（親御さん）が透析療法を受けるか受けないか」ということが話し合われるわけですから、担当医からの説明だけではなく、やさしく書かれた患者向けの解説書などでの学習が必要になります（インフォームドコンセントのための図説：透析療法 改訂3版、大平整爾編著、医薬ジャーナル社、2013年など）。親御さんと一緒に学習で当人の理解度・積極性・自立度を捉えて、透析を始めるか否かの希望を聞き出すことが肝要になります。
- ② 話し合いでは説明の途中でも理解できなかったり疑問が出たら質問させてくれることを医師に頼みましょう。

●話し合いで心得ておくこと

■治療法について

医師は進行腎不全に対する治療法：保存療法、血液透析・腹膜透析・腎移植を説明します。ここで問題になるのは、患者さんの理解力や同意能力の有無を家族は医師と協力して冷静に判定す

ることが大切です。これが衰えていたりなかったりしたら、患者さんに代わって家族が患者さんに一番良い方法を医師と相談することになります。ひとつひとつの治療法に得失があります。最も好ましい腎移植は他人からの腎臓の提供が前提となり、その提供が少ないために腎移植は事実上希望してもなかなか叶いません。そのため、透析療法を受けるか保存療法(利尿剤・降圧剤・食事・運動など)を続けるかが実際的な選択となります。

腹膜透析

透析を受けるという決断を患者さんと家族でした後、腹膜透析なら自宅で行うことが可能ですが、幾つかの「手」を使う操作を患者である親御さんができるか。

できない場合、家庭内に代わりに行う介助者がいるか否かが問題となります。

血液透析

血液透析の場合には、浄化(きれいに)する血液を体内から取り出し戻す血管の工夫であるシャントを作ることに適した動脈と静脈を持っているか否かが第一の関門となります。

次に血液透析は通常週3回・1回4時間のスケジュールで行われるので、一定期間の入院後に透析を受けるための通院が一人で可能か、介助通院が必要か、介護タクシーか、あるいは医療施設で送迎をしてもらえるかが問われます。

■そのほかに心得ておくこと

透析療法は長く続くので家族の負担は軽くなく、患者の最も身近にいて絶えず観察している看護師に心配な事項を尋ねましょう。透析治療の費用は保険が殆どを補ってくれますが、細々とした出費についても病院側から情報を得るようにしておくことが重要です。

一定の期間透析後に、どうしても負担が大きく自分には合わない治療だということになれば、治療形式の変更や継続中止を考えなければなりません。認知症が重度で(自分・家族や親しい人々、時間・場所を正しく判断できず記憶障害などが出てきて)、自力の摂食ができない場合は、個人的には透析は受けない方が得策だと考えています。

■治療方針の最終決定と開始後

担当医との話し合い後、まだ気持ちがすっきりしない場合は、**セカンド・オピニオン**(ほかの医師の意見を聞く)を担当医に遠慮なく申し出て下さい。それがなければ、共同の意思決定の結果として、治療が開始されます。

●透析開始後は

- ① 患者さんの心身の状態の変化
 - ② 食生活の可否・栄養士への相談
 - ③ 透析療法を受け入れているか否か
 - ④ 多くの高齢者の方は退職しており、地域との繋がりを持つこと・身体的な運動を行うこと・してもらっただけではなく他の人に何かをしてあげる気概を持つこと・自分の周囲の社会の出来事に注目し関心を払うことなどに関して親御さんができるように支援することが、透析を受けさせる・薬を忘れずに飲ませるなどと同様に大切な事柄になります。
- をじっくりと観察することが必要です。

高齢な親御さんが残る命を快く生きて望ましい命の総仕上げが迎えられるように、家族が医療者と力を合わせることを最大の目標にして透析治療を考えることが重要です。